

刑務所訪問(アメリカ)報告

(菊田幸一・明大)

2003年9月24、25日

ウイチタ州立刑務所

- (1) EL DORADO CORRECTIONAL FACILITY
- (2) HUTCHINSON CORRECTIONAL FACILITY

ウイチタ州立刑務所を訪問して

第1訪問地 EL DORADO CORRECTION

FACILITY(EDCF) (2003・9・24)

施設概況 敷地 83,514エーカー

年間予算 17,390,384ドル

収容者一人の収容費 18,255ドル

職員総数 558人 (うち女性 120人)

内訳 保安職員 322人

医師 44人

医師は州の病院施設からくる

精神科医師 17人

レントゲン技師 2人

その他

収容関係 (男子のみ、03年8月27日現在)

特別隔離収容者 371人

重警備収容者 87人

中警備収容者 419人

軽警備収容者 175人

未分類収容者 359人

死刑囚 7人

終身刑 約300人

犯罪別

暴力犯罪 517人

性犯罪 263人

非暴力犯罪 317人

麻薬関係 314人

人種別

白人 63%

黒人 35%

その他 2%

年齢別

最高年齢 82歳

最年少 17歳

平均年齢 34歳

①医療関係

- ・ 医療医師 30人 外部からくる
- ・ 自殺した者 1991年～2003年で7人
この間の職員による暴力はない
- ・ ノイローゼその他の重病人はカンサスの病院へ移送
- ・ 精神障害者は州立病院へ移送し病気が治り次第戻す。

②隔離房 128房

- ・ 暴力を振るった者は、1時間くらい手錠かけ隔離房へ収容する。房内での手錠はない
- ・ 戒具の使用 収容者にチェーンを使用したときは、カウンセラーがOKを出す。そして椅子に48時間拘束できる。4時間ごとに医師が検査する。チェーンは収容者のためのもの。

第44章14条101項 (b) 隔離房に監禁する受刑者の各房は、可能な限り施設の他の房と少なくとも同等の広さであるものとし、昼間に適当な照明があるものとする。トイレ、ベットおよび飲料水、洗面を含む市民生活に必要なすべてを供給し、快適な生活のための標準的な室温を維持する。

(j) 隔離受刑者の各人には、一般人と同じく手紙の発信、受信の機会が与えられる。

(k) 面会は、その権利を制限する具体的理由がなければ制限を許さないものとする。可能であれば受刑者は、面会者の到着前に拘禁状態を面会者に

通知する機会を与えるものとする。

(1) 電話をかける特権は、限定的に許可するものとする。

(r) 隔離受刑者は読書・資料を見ることができるものとする。

③武器の使用

刑務所内の一部に武器の倉庫がある。使用したのは19

57年に1回だけである。(ガン(拳銃)とスタンガ

ンがある。

④規律違反の総数(年間)

1か月 約150件

⑤懲罰に対する異議の申立(第44章第13条 懲戒手続、一般手続参照)

- ・ 事件の内容としては、所持違反のもの、タバコ、ヤク、武器、その他。

⑥不服申立関係(第44章13条701項以下参照)

- ・ 最初はスタッフに相談
- ・ カウンセラー2人と、1人のマネージャーが各施設のユニットにいる。その際にペーパーに書いて内容を知らせる。用紙は収容者がもっている。また各所に箱があり、不服を書いて投函できる。
- ・ 問題があり解決できないときは、訴訟を起こすことが

できる。

- ・ 裁判では収容者に付く弁護士や、施設側に常駐している弁護士に相談する（施設内に1人の弁護士が常駐）
- ・ 裁判は年間で30件ぐらい
- ・ ほとんどが勝訴している。その内容は、事故による死亡で、外部で働いていて死亡したので、その補償問題。
- ・ 受刑者の死亡に関しては、州の本部が調査に当たる。記録は本部が管理している。

⑦保険関係

- ・ 病気のときの保険は、最初に収容者が2ドルを支払う。その後は州が支払う。
- ・ 重病も無料、がんも含まれて無料。
- ・ 歯の治療も無料。
- ・ 社会では、収入がなく保険がなくても治療が可能である。ただし、高級な治療は不可能である。心臓の病気で治療費がなく、銀行強盗して刑務所で治療を希望した者がいる。

⑧釈放関係

- ・ 初出所するとき、最初だけ1人に100ドルを支給する。
- ・ パロールは本人が申請できる。Good time 制をとっている。

申請許可 75%

不許可 25%

- ・ 仮出所後の再犯率は8か月から2年以内に65%。

⑧職員関係

- ・ 1週間40時間制、超過勤務は4～8時間くらい。
- ・ 現在はフタッフ不足のため超過勤務が多い。
- ・ ユニオン加盟者は4～5人くらい。組合は弱い。
- ・ 刑務所が新しいのでユニオンが弱くとも問題ない。
- ・ 収容者の加リーは2、500加リー。
- ・ 収容者の作業は仕事がないので就労している者はすくない。外部の仕事している者で1時間5～10ドル支給している者がいるが、特別の4=5名程度。他の者は、1日 60セントない1ドル程度。
- ・ 雑居房はない。最低でも1房に2人（2段ベット）。
- ・ 1人の個人ロッカー（61×61センチ）

- ・ 就寝時の夜間はライトを小さくし、読書はできない。
- ・ シャワーは1時間おきにできる。
- ・ 一般社会では、65歳以上は政府と保険会社、州が負担。金のない者は政府が全部負担。

第2訪問地

Hutchinson Correctional Facility (2003-9-25)

施設概要 1909年設立, 最終増設 2001年

(1991年に640人収容の重警備棟を増設)

コントロール・タワーだけに銃器あり

看守は武器を所持しない

収容関係 総数 1800人 (現在人員 1100人)

中警備 570人 (5人部屋) 各種の犯罪を犯した
者が同房、終身刑も混じっている。

重警備 620人 (1人部屋)

死刑囚 50人

終身刑 10~15%

罪名別 (重複あり) 暴力関係 517

性犯罪 263

非暴力関係 317

麻薬関係 314

収容者の平均年齢 34歳

最高年齢 82歳

最小年齢 17歳

スタッフ 650人（事務官27人、営繕関係23人、ユ

ニット・チーム31人、記録12人、レクリエーション3
人、医療関係44人、教育3人、食事関係20人、その他）

内 保安看守 350人（男 320人、女30人）

受刑者1人当たりの年間経費 18,255ドル（約200万円）

重警備単独室（C 1棟）（添付資料参照）

5×60フィート

5×8×8フィート（幅は一人の人間の両手を

広げて壁にさわれる）夏は暑い。

運動は1日 1時間45分

グループで網囲いのなかで運動する

シャワー 毎日5分で止まる（シャワー口が6個

ついていて同時に6人がシャワーできる）

就寝 午後10時 部屋は消灯（中央道路は小灯、

独居内ではその後は自由）

中警備 (D 棟)

1 人部屋に 5 人 2 段ベットが両脇にあり中間に

1 段ベット

・ 1 日の労働 (8 時間) で 65 セント～5 ドル程度

最初の時給—12 セント～32 セント (皿洗い、

掃除、最低 8 セント)

・ 1 人のロッカー 2 メートル×40 センチ、奥行

き 50 センチ

・ タバコ禁止

行動がよいと買い物もできる、テレビ、扇風機、

ラジオ等所持、行動が悪いときにとりあげ (棚に

はありったけの食糧品が詰め込まれていた)。

(D 3 棟) 雑居 (76 人) 5 人 1 部屋 クーラー、

テレビあり雑談できる。行動自由

・ ロッカーに入れきれない物は 30 ドルで 1 個のトラン

ク購入可

・ その他うつ病の収容者のため自殺防止用の特別室あり。

部屋にはシャワー、トイレ、布団なし、24時間カメラ作動。食事は小さな物はドアの小窓から、大きな物はドアを開けて手渡す。

点呼 平日 16時と22時の2回

休日 12時、16時、22時の3回（休日に点呼が多いのは面会があるため）

電話 1日に15分のみ、予約制、コレクトコール専用

郵便物 1週間に1度（3か月に1度は家族からの荷物OK）

食事 朝食—コーヒー、ミルク、トースト、スクランブルエッグ、ベーコン、フルーツ

昼食—1食1ドル（フランスパン4切れ、ハムまたはソーセージ2枚、スライスチーズ1枚、クッキー1枚、赤いリンゴ1個

ライブラリー

7～8人が新聞を読んでいる。一定時間、図書館で過ごせる。

最高裁までの判例整備あり。

面会

（面会は家族を有する者にとって、失われるかも知れない家族との絆

を維持するために重要である。自ら更生しようとする者にとっては家族や友人との規則的な面会は積極的な気持ちを維持するに大事な事項である)。(Visitors Handbook, Revised April 2003,P.2)

- ・すべての面会者は入り口で検査を受け、財布、鍵、等をロッカーに預ける。ただし小銭の所持を許す（1回の面会で20ドルまで、自動販売器での購入、インメートは不可）。面会時間は午前8時30分～11時、午後12時～2時30分の2グループがある。
- ・現に懲罰中の者は面会室の脇にある画面を通じて面会が可能。
- ・面会するとき、喫煙は禁止。子どもと遊ぶ以外は床に座ったり机に座ってはならない。ピザを食べることができる。
- ・面会者は面会の最初と最後の数分内に抱擁、キスすることを許す。

医療関係

1週間 30時間働く医師—特別のナースが常駐

所内で治療不可のときは Prison Help Service（全国組織）へ移送する（カンザスの私立病院と提携）

- ・精神病や暴力的な囚人には両手に皮手錠をかけることがある。
- ・受刑者は具合の悪いときは、まずナースに見せ、必要なら医師へ。レントゲン室や治療室はあるが、とくに重病の場合は外

部から薬を取り寄せ治療に当たる。

- ・ H I B とエーズの検査はインメートの希望に限り検査する。
- ・ 勉強室でのエンピツでも凶器になるが 20 年以上、そのような事件はない。

懲罰関係

担当者 Darwin Theomas

- ・ 各棟にカウンセラーがいて、不満なときは、まず彼に訴える。

(添付資料 (6) 参照) スタッフは時間をかけ情報を集めて決定する。不満は紙に書いて廊下に設置している箱に投函できる。

受刑者の一人が規律を守らず房の窓から物をなげた。本人は投げたことを認めて隔離された (別添付資料参照)。

この段階での決定は担当者 1 人が決める。90%は 1 人で決め、10%は上司と決める。この刑務所には特別な事件がないので 1992 年に 1 回だけ弁護士がきた。

施設内には 100 人が入れる懲罰室が 3 つある。現在はここの総計約 200 人が収容されている。部屋では自由であるが、外に出るときはチェーンを付ける。(添付資料 (5) 参照)

- ・ 懲罰で多いのは、①スタッフを殴る、②ルール違反、③その他

終身刑受刑者 3人との面接

(1) Rock Allmon 42歳 黒人 現在16年目、殺人1人

・ 9人の子供がいる。1日のスケジュールは、掃除やその他の仕事1か月ほぼ29ドルの収入（夜間働いて昼間寝ている）。運動したり経済の勉強をしていて結構多忙である。

・ 食事はおいしくはないが気持ちの上では満足している。夢としては、もし出所できれば子どもの犯罪をなくするような仕事をしたい（この刑務所へは非行した少年たちが訪問し、受刑者と対談する機会を設けている）。

・ 1年のうちでクリスマスぐらいが楽しみである。家族からの送り物は以前はあったが今はない。クリスマスには特別のことはないが、同僚と食事を作って食べることができる。

(2) Dale Olson 47歳、現在27年目、殺人3人

・ 現在の心境は両方の被害者家族に申し訳ない気持ちでいっぱいである。自殺する気持ちにはなっていない。1977年らい家族は来ていない。

・ 1日のスケジュールでは、運動をコンピューターの仕事で、1か月（1日8時間）21ドルの収入。

- ・ 夢としては自分の母親も妹も行くへ不明なので捜して話をしてほしいこと。

(3) Tia Steek 31歳、現在11年目、殺人1人。

- ・ 子どもが1人いるが面会はない。一度は自殺したいと思ったが今はない。
- ・ 1日の日課では、雑務で働き、その中で歌を作ったりして多忙である（1か月21ドルの収入）。
- ・ 夢としては、出所したら子どもたちを助けたりボランティアの仕事をしたい。

(個人的関心から面接であり詳細は省略した)

添付資料 (1) 菊田幸一・監訳「カンザス州矯正局受刑者規則・1994

4年6月発効」法律論叢70巻2・3号269頁以下。

(2) Department of Corrections, State of KANSAS, INMATE RULE BOOK, Office of the Secretary of Corrections, Revised 2/15/2002

(3) 通常房 (図面)

(4) 隔離房 (図面)

(5) 懲罰房 (写真)

(6) 懲罰レポートおよび調書

添付省略